

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
7	長谷川祐司（4）	<p>1. 富士市職員の時間外労働時間管理及び職場環境について</p> <p>昨年2月定例会にて、コロナ禍における富士市職員の過労死ラインを超える勤務の対応について一般質問をさせていただきました。市長答弁では、部長、課長といった所属長は、全職員の業務内容等を日頃から十分把握しているため、全ての所属長に対し、今日の議論を踏まえた中での職員の健康管理については改めて徹底を図り、しっかりとマネジメントしていくよう指示したいとのことでした。そこで、令和4年度の勤務状況についてお聞きいたします。</p> <p>(1) 令和3年度職員の過労死ラインを超える時間外労働時間に対し、職員の健康を害する勤務にならないマネジメントにより職員の時間外労働時間に変化があったのでしょうか。</p> <p>(2) 令和3年度の選挙管理委員会事務局で、衆議院議員総選挙及び参議院静岡県選出議員補欠選挙により、時間外労働時間1か月250時間をオーバーした職員が4名いたとのことでしたが、本年4月の県議会議員選挙及び市議会議員選挙に向けてどのように時間外労働時間管理を行っていくのかお聞きいたします。</p> <p>(3) コロナ禍で業務が増えたとの声を聞くことがよくありますが、そもそも業務量に対し、職員の工数が足りていない部署はあるのでしょうか。</p> <p>2. 富士市としての生活困窮者への対応について</p> <p>昨年12月20日に連合静岡から川勝平太静岡県知事に対し、生活困窮者の実情を鑑み、要請書が提出されました。昨今の物価高騰で生活困窮者支援の必要性が高まっていることから要請を行ったものですが、富士市としての生活困窮者への対応についてお聞きいたします。</p> <p>(1) 生活困窮者に対し、伴走型支援は強化されているのでしょうか。</p> <p>(2) 住居を失った人や失うおそれのある人に対し、家賃補助や公営住宅の入居条件の緩和など、住まいに対する支援策は行っているのでしょうか。</p> <p>(3) 生活困窮家庭の子供の貧困対策として、親への経済的支援や就労支援、食事支援、生活支援、学習支援など、包括的に行っていることはあるのでしょうか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
8	笠井 浩（20）	<p>1. 富士市民に大きな夢と希望をもたらす岩本山の有効活用について</p> <p>富士市は製紙業を中心とする工業都市として発展してきたが、城下町や門前町のように市のシンボルといえる他市に自慢できるものが乏しいと感じる。</p> <p>市民としても他市他県に住む友人に「富士市といえば〇〇があるまちだよ」と言ってもらえる何かが必要だと痛感している。</p> <p>ただ一つ、岩本山からの富士山、駿河湾を望む景観は世界一だと感じるが、今一つPR力に欠けている。</p> <p>この世界一の景観を望める場所に世界に自慢できるものがあれば、富士市の名前を世界に発信する原動力となる。そのためには自慢できるものを誘致できる場所が必要だが、富士市内の広大な土地はほとんどが青地で法の規制がかかっており利用できる場所がない。</p> <p>富士市の未来に大きな夢と希望が持てるものを誘致できる場所をつくるために以下質問する。</p> <p>(1) 岩本山周辺エリアに土地利用の様々な規制の緩和が可能となる富士市版・観光推進特区を設定し、観光による地域の活性化を強力に推進すべきだと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 観光政策の手始めに新東名高速道路のハイウェイオアシスを誘致すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 岩本山の観光政策について、岩本山を観光拠点として活用する会から提言書が出されているが、この会の活動に市も積極的に関与すべきと考えるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	川窪 吉男（30）	<p>1. 馬車鉄道と紙のまち富士市の歴史について</p> <p>昨年10月、鉄道開業150周年を迎えました。全国各地でグッズ販売等いろいろなイベントや記念行事が開催されました。本市でも、11月26日にふじさんめっせで、地方鉄道サミット in FUJI&地方鉄道フェア2022が開催され、多くの入場者でにぎわいました。</p> <p>そこで、富士市の鉄道の歴史を振り返ってみますと、紙のまち富士市として発展した今日、表題の馬車鉄道の歴史を語らなければなりません。</p> <p>1872年（明治5年）10月14日、日本初の鉄道が新橋－横浜間に開業しました。これを境に日本の交通事情が変わってきました。そして、1889年（明治22年）の鈴川駅（現吉原駅）の開業で、紙の製造技術も変わってきました。江戸時代からミツマタを原料にした駿河半紙が主流産業でしたが、開業したことで富士山麓の豊富な湧水や木材チップを利用した本格的な洋紙産業が始まり、鷹岡地区の入山瀬に富士製紙第一工場が建設され、操業を始めました。</p> <p>この建設に当たり、当時は東海道線が静岡駅まで開通していましたので、欧米から輸入した機械類は横浜港から清水港に陸揚げされ、鈴川駅（現吉原駅）まで汽車で運ばれてきました。そこから入山瀬の工場建設現場まで運びましたが、道路状況は極めて悪く、大変苦勞して運んだそうです。</p> <p>このため、1889年（明治22年）、新道建設の必要性が持ち上がり、大宮新道が開通しました。翌年、その新道に2本のレールを引いて線路を走る馬車鉄道（鈴川－大宮間、14.1キロメートル）が開業しました。人なら10人から15人くらいまでが乗れる箱型の車を馬が引く乗り物です。また、人だけでなく郵便物や資材、木材パルプ等も運搬しました。</p> <p>その後、木材チップを原料にした本格的な製紙工場が次々と建設され、今日の紙のまち富士市を形成する土台となり、運送業をはじめ様々な企業が発展しました。しかし、この紙のまち富士市誕生に大きく貢献した馬車鉄道の歴史に触れるような看板等はありません。</p> <p>そこでお伺いたします。</p> <p>(1) 馬車鉄道の軌道の跡に案内看板等を設置して後世に語り継ぐべきではないでしょうか。</p> <p>(2) 馬車鉄道の歴史を富士市の観光ルートの1つとして整備できないでしょうか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
10	小沢 映子（27）	<p>1. 性と生殖に関する健康とそれを保障する権利（SRHR）～自分の体のことを自分で決められる社会を～</p> <p>セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）とは、人々が自分自身や家族を含めた社会全体の中で自己決定ができ、安全で健康的な性生活を送り、妊娠や出産、性感染症などの健康上の問題に対処するために必要な情報やサービス、支援を受けられることを保障することを目的とした概念である。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の性の在り方について自由に決められること。 ・性体験が安全で満ち足りたものであること。 ・子供を産むか、産まないか、いつ、何人持つかを自分で決められること。 <p>この概念は、1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議で初めて提唱された。</p> <p>女性がこの権利を享受するには、男女の平等な関係と共同の意識、女性の自己決定の力が前提になる。しかし、全ての人々がセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスの権利を十分享受できているか、私たちの周囲を見渡すと、そうとは言い難い現状がある。</p> <p>そこで、以下質問する。</p> <p>(1) SRHR（性と生殖に関する健康と権利）が提唱されて28年たつが、富士市での認知度はどうか。</p> <p>(2) 性と生殖に関する健康を権利として保障するために、富士市ではどのようなサポートが受けられるのか。</p> <p>(3) 日本では、性教育の遅れもあり、子供や若者の「性」に関しては課題だらけであると指摘されている。アダルト向けの誤った情報が多いことや、親や学校が相談しやすい環境ではないこと、性感染症やデートDV、望まぬ妊娠や同意なき性関係のトラブル、性自認や性的指向に関しての悩みによる鬱や自殺が多い。</p> <p>これらの課題に対してどのような支援を受けられるのか、またどのような支援が望まれていると考えるか。</p> <p>(4) 政策決定に関わる女性が少ない現在の行政の状況で、真に女性の尊厳が脅かされないまちにできると考えるか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
11	井上 保（17）	<p>1. 新々富士川橋（富士川かりがね橋）の開通と旧富士川町域の地域資源の活用について</p> <p>昭和61年8月当時の富士市・富士宮市・富士川町・蒲原町・由比町・芝川町・富沢町・南部町・身延町の2市7町によって新々富士川橋建設促進期成同盟会が設立され、平成16年4月に新々富士川橋の建設事業が着手された。</p> <p>以来久しくその開通が待たれていたが、いよいよ令和5年度中に供用開始という目標が示された。</p> <p>この間、平成20年11月には富士市と富士川町が富士川を間にしながら合併し、一つの自治体となった。</p> <p>新々富士川橋には渋滞緩和、地域間交流の促進といった当初の目的に加え、合併後の富士市の一体性の向上を図るための社会基盤としての効果も期待されることとなった。</p> <p>新々富士川橋を生かし旧富士川町域の地域資源を活用し、富士市の一体的発展をどのように図っていくか、以下質問する。</p> <p>(1) 新々富士川橋の建設について、富士市の関連道路整備も併せ、開通までの日程について示されたい。</p> <p>(2) この開通により渋滞緩和、地域間交流の促進などが期待されているが、通勤時間の短縮や公共施設へのアクセスなど、住民の利便性は具体的にどのように向上すると考えているか。</p> <p>(3) 新々富士川橋の開通により、松野地区の市街化調整区域内の地区計画適用候補地区への効果が期待されるが、現状を踏まえ、その効果をどのように考えているか。</p> <p>(4) 新々富士川橋の開通により、旧富士川町域の地域資源などのさらなる活用が期待される。旧富士川町域の自然や景観、文化財などの地域資源、富士川楽座や富士川体育館などの公の施設について、それぞれの価値をどう評価し、どのように活用を図っていくか、市の考えを示されたい。</p>	市長 及び 教育長 担当部長